

最高の学生生活を！

～学生が行きたくなる大学づくり～

グループ名：(C-2) クリス石井 JAPAN

～絶対に負けられない〇〇がある～

1.課題認識

私達のグループには経理、図書館、大学院、就職、教務等の様々な所属のメンバーが集まった。このため、抱えている問題も多種多様であった。例えば、学生への対応に関する問題意識が強い場合、高校生や保護者や同窓会等の対外的な関係者への対応に関する問題意識が強い場合等と様々であった。

しかし、一方で普段働く部署の違いがあるにも関わらず、メンバー全員が学生満足度を低下させるような問題については同じ問題意識を共有していた。具体的には「学生が入手したい情報をすぐに提供できず、学生・教職員がたらいまわしになってしまっている」、「離学率の高さ」、「トイレで一人でご飯を食べる等、コミュニケーションが苦手な学生がいる」という点であった。

学生満足度が低下し学生が大学に来なくなることは、教育的、経営的にも看過出来ない問題である。それでは、逆に学生が来たくなるような大学をつくるにはどのようにすればいいのだろう。私達はこの疑問点をテーマとして、討議を深めて提案を行った。

2.討議内容

1) フェーズ 1：各々所属している職場が抱えている諸問題点とその共有

全メンバーで問題点を洗い出したところ、下記のように情報共有と学生対応に関することの 2 つに大まかに分類することができた。

【情報共有の問題】

- ・決まったことをなぜか知らないと言われることがある。
- ・情報をどこまで共有するのか。(他キャンパス・部署・教員と)
- ・情報の共有化がはかれない。(キャリアセンターでは学生の出席履修状況が不明)
- ・各学部・事務室が把握している情報が把握できないため、学生対応に苦慮する。
- ・学生・教員を職員皆でたらい回しにしている。

【学生対応】

- ・学生にとってカウンターの人全て同じに見える。
- ・学生に窓口で相談しにくいと言われる。
- ・HPがださい。
- ・知名度が低い。
- ・情報が氾濫、学生が結局わからない。
- ・学生募集力。
- ・離学率が高い。

2) フェーズ 2 : 問題点の掘り下げ

フェーズ 1 で洗い出した問題点を「情報」という枠にとらわれず、さらに細かくグルーピングした結果、下記の 3 つの問題点に集約することができた。

1. 情報所在の明確化
2. コミュニケーション
3. 学生のニーズに応える大学へ

次に、私達は上記の各問題点を解決することでどのような結果が得られるかを次のようにイメージした。

1. 学生はストレスのない充実した学生生活を送れるようになる。
2. 学生・教員・職員それぞれの結びつきが深まり広がる。
3. 大学の魅力が社会に認知される。

3) フェーズ 3 : 提案内容

フェーズ 2 での議論の結果をもとに、どのような施策を実施すればよいのか他大学の事例を参考に具体的な提案内容を以下の通り考えた。

1. 学内ポータルサイトの構築・活用

学生が自身の履修・取得単位・出欠の状況を確認したり、各窓口の概要・学内イベント・学年暦等について知ることができる。

(例：鍵の開閉で教員の在室・不在が分かるシステムの導入。)

2. サポートネットワークの整備

立場に関係なく、自由な内容を双方向でやり取りできる。

(例：FaceBook 等の SNS を大学全体として積極的に活用)

3. 独自アンケートの実施

常に学生の声を拾うことができているかを確認する。

(例：卒業時アンケート)

3. まとめ

1 日目の講演でその重要性を教えていただいた PDCA を意識して、提案内容を練れた点がよかった。また、テーマ設定までに時間をかけてメンバー全員の問題点を共有することができたため、広い視野で提案内容を考えることができた。しかし、テーマを狭く絞りこめなかった分、オリジナルの提案はできなかった点が反省点である。

今回の研修で発表内容以外にも準備段階で、他大学で実施されている様々な取り組みについて情報交換ができた。今後は各メンバーがそれぞれの大学で、研修から得た知識を元に PDCA を意識して、学生が来たくくなるような大学作りのため様々な施策を実施する。

以上